

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前，メールアドレス，添付資料を除き，HP等で公表します。また，ユネスコスクールの質の確保の観点から，報告書の内容が一定の基準に満たないもの，報告書が未提出の場合には，ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので，あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 広島市立古田中学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中等教育学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 その他 ( )

住所 〒 733-0874  
広島市西区古江西町27番1号

E-mail : huruta-j@e.city.hiroshima.jp

Website : http://cms.edu.city.hiroshima.jp/weblog/index.php?id=j1043

児童生徒数：男子 449 名 女子 421 名 合計 870 名  
 児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

4. 活動内容

- (1) 1年間の主な活動内容について記載願います。  
 ※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため，活動内容については，添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

## 1 本校活動の概要

### (1) 研究テーマ及び研究のねらい

#### ①研究テーマ

E S Dの学校教育（導入）に関する実践的研究

－みんなが幸せで平和な社会への志向－

#### ②研究のねらい

現代の社会や世界には、広範多岐にわたる地球規模的な諸課題が存在しており、持続可能な（本校では「よりよい」と定義）社会・世界の構築が求められている。このような中、本校のこれまでの歩み、生徒の実態、これからの教育（学習指導要領）の方向性から、本校はE S Dに着手した。本校の「E S Dのねらい」は、『「みんなが幸せで平和な社会」を実現するために、何ができるか、何をすべきかを自ら考え、行動できる人材（力・担い手）を育てる』ことにあり、全教職員により全教育課程を通したE S Dを推進している。

### (2) 研究内容

教育課程全体を表した「E S Dシステムマップ」、各教科・領域間で横断的实践が行えるよう、E S Dの内容を一覧にした「E S Dカレンダー」並びに「E S Dクロスカリキュラム」（総合的な学習の時間のテーマをもとにした）を作成し、活用している。このように、本校では総合的な学習の時間を核とし、思考力、判断力、表現力育成に特化した言語・数理運用科、知の総合化を図る各教科、活動の統合としての特別活動、心との統合に係る道徳等、全教育課程において、探究的、横断的、総合的な取組を行っている。このようなE S Dの取組を通して、「思考力」「判断力」「表現力」「コミュニケーション力」「実行力」の5つの力を育むことができると考えた。

## 2 授業実践について

### (1) 総合的な学習の時間での取組

本校のE S Dは、総合的な学習の時間を中心に展開している。それは、総合的な学習の時間が「横断的・総合的な学習や探究的な学習」を通して「問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度」を育て、「自己の生き方を考えることができるようにする」時間であり、まさにE S D推進の要となるからである。本校では、地域と連携した国際交流をこれまで行ってきた歴史があり、生徒の実態やこれからの教育の流れから、今までの総合的な学習の時間を体系的に見直した。本年度は、学年の主題及び時数を次のように設定し、実践を行った。

・第1学年（15時間）：

「地球環境の課題を自分たちの生活をもとに考えよう」

・第2学年（35時間）：

「水に関わる社会問題の解決を考えよう」

・第3学年（35時間）：

「平和な社会の実現のための提言を発信しよう」

特に学習過程においては、探究活動としての「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」の過程を一連的に行っていくとともに、ゴールの姿を明確に見通し、最終的な表現段階において、行動化に向けた主張が「提言」としてまとめられていること、その提言には「根拠と理由」が明確であることを主眼に学習指導を進めていった。また、課題の設定の段階から発信・交流の段階までの全過程において、ゲストティーチャーの協力を仰ぐとともに、国際交流を行っているカンボジアや韓国、米国の生徒や修学旅行先でのアジアの留学生とのディスカッション等も多く取り入れていった。

### (2) 総合的な学習の時間における授業改善のポイント

#### ①根拠と理由の明確な提言づくり

探究活動を通して、根拠や理由を明確にした提言をまとめ、発信し行動化する

るよう生徒に見通しを持たせる。ゲストティーチャーから幅広く専門的な意見を聞き、マインドマップを使って自分たちの意見を出し合い、考えを深めながら、「私たちは～すべきだ、～する」といった提言を、「課題の設定」の段階で考える。その後の「情報の収集」や「整理・分析」をする中で、提言内容に修正を重ね、よりよいものとしていく。特に、情報を収集する際には、提言の根拠や理由となるものを取捨選択し、自分の考えや意見を論理的にしていく。



ベリン・マッケンジーさん  
(UNITAR) から平和について



赤江さん (中国新聞社) から  
新聞の読み方について

## ②発信から行動化へ

自分の提言を「だれへ・どのように」発信するかを考えさせ、資料の提示の方法や順序、発表方法を工夫するように指導する。さらに、発信することで終わらせず、行動宣言を発表交流し、今後の自分の生き方につなげさせた。

具体的には、昨年度「総合的な学習の時間」で取り組んだ内容を上級生が下級生に紹介し、生徒同士が交流する場を年度当初のオリエンテーションとして設定した。また、執行部の生徒が「世界水の日子ども議会 in Osaka」でプレゼンした内容を、全校生徒に紹介し、特に2年生の今後の提言への参考とし、学校全体の取組とした。



子どもオリエンテーション



水について執行部プレゼン

さらに、授業を通して生徒は自分の意見を表現できるようになってきている。例えば、発表場面では、生徒それぞれが自分で工夫した手法によりプレゼンし、他者の発言や提言に対して自分の意見を述べ、活発にディスカッションを行う場面も見られるようになった。また、校外において、地域の「このまちにくらしたいプロジェクト」での多世代との交流や、海外に対して「フィリピン支援プロジェクト」の立ち上げなど、自分たちで考え行動に移していこうとする生徒も出てきている。



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）